



令和5年度前期学校評価アンケートについて

令和5年度 前期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

7月に実施した前期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間 令和5年7月3日～7月14日

◇対象者 白河総合支援学校生徒・保護者・教職員

◇方法 ・アンケートフォーム(Forms)およびアンケート用紙にて回答

・各項目の「適合度」を4段階で評価

・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析

◇回答率 生徒98.0% 保護者84.3% 教職員100%

◇分析結果

・百分率で数値を表記

・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析

・【サービス】については、教職員のみの項目として分析

・肯定的回答85%以下、否定的回答15%以上の項目は ■ で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組めているか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

	教職員		保護者		生徒	
	項目内容	肯定的回答 否認的回答	項目内容	肯定的回答 否認的回答	項目内容	肯定的回答 否認的回答
1	個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行なっている	100.0% 0.0%	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がされている	97.7% 2.3%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	92.1% 7.9%
2	生徒や保護者に短期目標と評価、実習の目標と評価を伝えている	100.0% 0.0%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	94.2% 5.8%	今、現在の自分の目標がわかっている	86.1% 13.9%
3	生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を用意している	100.0% 0.0%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	90.7% 9.3%	目標に向かって学習に取り組んでいる	91.1% 8.9%
4	生徒は満足感や達成感をもち、専門科(地域協働)の学習に取り組んでいる	100.0% 0.0%	子どもは専門科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	88.4% 11.6%	専門科(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	86.1% 13.9%
5	生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	92.1% 7.9%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	83.7% 16.3%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	80.2% 19.8%
6	生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	100.0% 0.0%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	88.4% 11.6%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	93.0% 7.0%
7	生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている	92.1% 7.9%	子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	88.4% 11.6%	一生懸命働くという気持ちや職場で必要な態度が身についている	96.0% 4.0%
8	生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	97.4% 2.6%	子どもの努力や達成度が評価されている	95.3% 4.7%	先生は、学習の成果(できるようになったこと等)を伝えてくれる	92.1% 7.9%

多数の質問項目において、肯定的回答が85%以上となっています。保護者の『子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている』、生徒の『教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目においては、他の質問項目よりも否定的回答が高くなっています。また、生徒の『今、現在の自分の目標がわっている』『専門家(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目もやや否定的回答が高くなっています。授業のねらいや課題を具体的に伝え、生徒が自分の目標を明確に理解することで、やるべきことや頑張ることなどを意識して学習に向かう姿につながると考えます。また、自分の目標や課題を意識しながら学習することで、「できたこと」「頑張れたこと」など、自分の成長に気づき、達成感や充実感につながると考えます。生徒自身が主体的に学びに向かえるよう、伝え方・提示の仕方・教材選択などを工夫して授業づくりに取り組み、確かな学力の獲得につなげていきます。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかる内容について尋ねています。

教職員		保護者		生徒	
項目内容	肯定的回答 否定的回答	項目内容	肯定的回答 否定的回答	項目内容	肯定的回答 否定的回答
9 生徒の良いところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	97.4% 2.6%	子どもには良いところや得意なことがある	94.2% 4.7%	自分の好きなところや得意なことをよく知っている	86.1% 13.9%
10 生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	94.7% 5.3%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	89.5% 10.5%	自分はだれかの役に立っていると思う	66.3% 33.7%
11 生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人権を尊重した言葉かけや指導・支援を行なっている	97.4% 2.6%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な言葉かけや指導をしている	93.0% 4.7%	先生はわかりやすく丁寧な言葉づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	90.1% 9.9%
12 生徒との事前・事後学習や保護者との懇談会等、相談などに丁寧かつ適切に対応している	100.0% 0.0%	ケース懇談会など、学校は保護者に適切に対応している	91.9% 5.8%	事前・事後学習等で先生は仕事の内容や課題・評価等を教えてくれる	96.0% 4.0%
13 生徒が友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	94.9% 5.1%	子どもは友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	93.0% 7.0%	友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力している	94.0% 6.0%
14 生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	94.9% 5.1%	子どもは自分から積極的に挨拶している	79.1% 20.9%	自分から元気よく挨拶ができる	80.2% 19.8%
15 生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	89.7% 10.3%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	90.7% 8.1%	学校の決まりや約束を守っている	88.1% 11.9%
16 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	92.3% 7.7%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	82.6% 17.4%	家庭で決まった役割(例えば、お手伝い)があり、実行している	80.2% 19.8%
17 全教職員が学びいじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	97.4% 2.6%				
18 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	74.4% 25.6%				
19 生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している	94.9% 5.1%				
20 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している	89.7% 10.3%				

各質問項目において、おおむね肯定的回答が高くなっています。生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の質問项目的肯定的回答が60%台となっており、低い数値となっています。この項目は、他者とのかかわりの中で高まる自己有用感に対する質問項目です。また、保護者の『子どもには家庭で決まった役割があり、実行している』、生徒の『家庭で決まった役割があり、実行している』の質問項目で否定的回答が20%近くになっています。自己有用感を育むためにも、学校や家庭の中で、目標や役割を設定し、生徒が活躍できる場を増やすことが大切です。生徒の頑張りを見逃さずに認めたり褒めたりすることで自己有用感を育んでいきたいと思います。また、行動や成果、目標に対して努力した過程(プロセス)を認めてることで、次へチャレンジする意欲にも繋げ、主体的かつ積極的な姿を引き出すことで自己肯定感を高めていきたいと考えます。

保護者の『子どもは自分から積極的に挨拶している』、生徒の『自分から元気よく挨拶ができる』の質問項目で否定的回答が20%近くになっています。一方で、教職員の『生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援を行っている』の質問項目は、肯定的回答が95%程度あります。同項目を昨年度の前期評価と比較すると、生徒の肯定的回答が5.2%高くなっています。今後も、挨拶はコミュニケーションの基本であることや、円滑な人間関係を築くための大切な行為であることなど、挨拶の大切さを生徒に伝えたいと思います。同時に、挨拶を交わすことの心地よさを感じることで、自然と挨拶をする習慣が身につくと考えます。学校全体で、挨拶を大切にする意識を高めていけるよう、生徒と教職員が一緒に取り組んでいきたいと思います。

教職員の『学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している』の質問項目は、否定的回答が25%を超えています。昨年度、前期評価との比較では15%程度肯定的回答が高くなっていますが、今後も生徒が安心して学校生活を送れるよう、学校のいじめ対策委員会の組織を生徒に啓発し、教職員が一丸となっていじめを防止するために日々努めていることを伝えたいと思います。

【健やかな体】

この項目では、健康に関するこについて尋ねています。

教職員		保護者		生徒	
項目内容	肯定的回答 否定的回答	項目内容	肯定的回答 否定的回答	項目内容	肯定的回答 否定的回答
21 生徒に適切な食生活を送るように指導している	92.3% 7.7%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	84.9% 15.1%	朝ご飯をきちんと食べている	78.2% 21.8%
22 生徒に衛生に関する指導・支援を行なっている	97.4% 2.6%	保護者として子どもには日常的に清潔にすることを心掛けている	96.5% 3.5%	清潔にすることを心掛けている(例えば、毎日の入浴や着替え、汗をこまめに拭くなど)	96.0% 4.0%
23 休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	89.7% 10.3%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	88.4% 10.5%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	69.3% 30.7%

保護者の『子どもは朝ごはんをきちんと食べている』、生徒の『朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目で否定的回答がやや高い数値を示しています。また、同項目を昨年度の前期評価と比較すると、保護者、生徒とも4%程度否定的回答が高くなっています。働く生活を送るためにも、栄養や休養をしっかりとることは欠かせ

ません。特に朝ごはんは、体温の上昇とともに脳を活性化させ、「やる気」と「集中力」が出て、一日の活動効率やパフォーマンスを上げることができます。今後も生徒が食事の大切さに気付けるよう工夫をしながら、適切な食生活の指導を行ってまいります。

生徒の『休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる』の質問項目で、肯定的回答が70%を下回っています。卒業後、ライフワークバランスを整え、質の高い生活を送るために、休日の過ごし方を充実させることが大切です。趣味の幅を広げたり、好きなことに没頭したり、余暇を思う存分楽しめる時間が持てるよう、自己理解を進めて自分を知ることや、ICTを活用して情報を収集することなどを学習するとともに、様々なことにチャレンジする気持ちを育てていきたいと思います。

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

	教職員		保護者		生徒	
	項目内容	肯定的回答 (%)	否定的回答 (%)	項目内容	肯定的回答 (%)	否定的回答 (%)
24	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	100.0%	0.0%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	90.7%	9.3%
25	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	100.0%	0.0%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	93.0%	7.0%
26	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	100.0%	0.0%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	96.5%	3.5%
27	情報モラルについての指導を積極的に行なっている	94.9%	5.1%	子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している	86.0%	12.8%

各質問項目において、肯定的回答が高くなっています。コロナ禍から脱却し生活が回復する中で、企業や地域など、学校現場だけでなく、校外での学習が広がってきました。様々な場所、人、ものとのかかわりの中で、生徒は、やりがいや使命感を持って活動に向かうことができつつあります。今後も、活動の幅を広げ、生徒がいきいきと学習できるよう、環境を整えていきたいと思います。

【サービスの項目】

この項目は、教職員のみの項目です。働き方に関することについて尋ねています。

	教職員		
	項目内容	肯定的回答 (%)	否定的回答 (%)
28	報告・連絡・相談を意識して行い、情報の共有に努めている	94.9%	5.1%
29	業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	71.8%	28.2%
30	職務の効率的な遂行を心掛けている	92.3%	7.7%

『業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている』の項目で、否定的回答が高くなっています。働き方改革が進み、少しずつ勤務時間が削減されてきましたが、教職員が心身ともに健康で仕事に向かえるよう、今一度、業務の改善や分担等の見直しを図っていきたいと思います。